

事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

作成日：平成16年2月3日

担当部・課：社会開発協力部社会開発協力第一課

案件名：アフリカ人造り拠点フェーズ2

(African Institute for Capacity Development (AICAD) Phase 2)

対象国：ケニア、タンザニア、ウガンダ

実施地域：（本部所在地）ケニア国セントラル州ティカ郡ジュジャ（首都ナイロビから35km）

実施予定期間：2002年8月～2007年7月

1. プロジェクト要請の背景

1998年10月に東京にて開催された第2回アフリカ開発会議（TICADII）及び同年5月のバーミンガムサミットにおいて、我が国は、拠点構想（アフリカ人造り拠点及び国際寄生虫対策拠点）の具体化と域内協力（南南協力）の推進をアフリカ諸国と連携しつつ支援することを表明した。なかでもTICADIIで採択された「行動計画」では、JICAが高等教育機関として20年以上に亘り協力し、ケニアの高等教育の発展に多大な成果をあげてきたジョモ・ケニヤッタ農工大学を中核に東アフリカ地域の「アフリカ人造り拠点（AICAD）」を設置し、同地域の社会・経済開発と貧困削減に資する人造り協力を展開していくこととなった。

AICADの具体的活動は、東アフリカの8大学の教育・研究機能を実学的な観点から発展させ、同地域の人材育成を加速させることを目的とした研究開発、研修普及、情報整備・発信の3機能を強化することにより、今般、2000年8月から2年間実施された準備フェーズに引き続き、5年間の本格フェーズが開始されるものである。なお、AICAD本部は我が国の無償資金協力によりジョモ・ケニヤッタ農工大学敷地内で現在建設中であり、その完工は2002年12月に予定されている。

準備フェーズにおける主な活動は以下のとおりである。

1) 組織の設立：意思決定機関のJCC（Joint Coordinating Council）及び

JWC (Joint Working Committee) を設置した。また、組織規定を策定し、組織登録の手続を行った。

2) パイロット事業の実施：共同研究の支援（11案件）、3カ国から研修員を受け入れた「灌漑・水資源開発」研修の実施（1件）、アフリカ開発セミナーの開催（2件）、ウェブサイトの立上げ、ニュースレターの発行などを行った。

3) 南南協力：インドネシアとの間で、相互に調査団を派遣し、今後の連携の可能性を探った。

2. 相手国実施機関

アフリカ人作り拠点 (African Institute for Capacity Development・AICAD)

ケニア：教育・科学・技術省

タンザニア：科学・技術・高等教育省

ウガンダ：教育・スポーツ省

3. プロジェクトの概要および達成目標

(1) 達成目標

1) プロジェクト終了時（2007年）の達成目標

東アフリカ3国の共同プロジェクトとしてのAICADの組織・事業が確立し、貧困削減に資するアフリカの人材育成が図られる。

2) 協力終了後に達成が期待される目標

育成された人材により、貧困削減への取り組みが進展する。

(2) 成果・活動

(1) 貧困削減のための研修事業の確立

1-1 コミュニティのニーズに基づいた研修テーマを策定する。

1-2 普及員やNGOを対象とした貧困削減に関連する研修を実施する。

1-3 効果的な研修を実施するためのカリキュラムや教材を開発する。

1-4 研修受講者の研修後の活動を追跡調査し、フィードバックデータを蓄積する。

1-5 ワークショップを開催し、研修から得られた成果をコミュニティレベルへ普及する。

1-6 セミナーを開催し、関係者間で知見が共有される連携を強化する。

(2) 大学の研究者等による貧困削減のための研究開発支援事業の確立

2-1 貧困削減に関するコミュニティのニーズと人的資源の調査・研究を行う。

2-2 貧困削減に寄与する実用的な適正技術の研究開発テーマを選定する。

2-3 選定された研究開発を支援し、モニタリングする。

2-4 貧困削減に寄与する既存研究を見直し再活用する。

2-5 貧困削減に寄与する適正技術データを蓄積する。

2-6 上記研究開発に関する結果を統合し、コミュニティで実践できる技術を開発する。

(3) 貧困削減のための情報ネットワークの整備

3-1 研修受講者のネットワークを形成する。

3-2 研究者のネットワークを形成する。

3-3 協力関係機関のネットワークを形成する。

3-4 蓄積された貧困削減に関するデータベースが共有される基盤を構築する。

3-5 貧困削減に有用な情報提供を継続する。

(4) AICADの企画・調整能力の向上

4-1 AICADでの活動を通じたスタッフの訓練を実施する。

4-2 AICADの運営規定を整備・改善する。

(3) 投入（インプット）

3-1 我が国側投入

(1) 長期専門家

チーフアドバイザー、調整員、人的資源開発、情報・広報、研究開発事業

(2) 短期専門家

農学、社会科学、土木工学など必要に応じ派遣

(3) 研修員受入

本邦研修及び第三国研修（受入）を必要に応じ受入

(4) 域内研修

現地国内研修及び第三国研修（実施）

研修計画に基づき年間4－5件の研修を実施機材供与

必要に応じ研修機材等活動に必要な機材を調達

3-2 被援助国側投入

(1) 人的投入

- AICAD職員（AICAD本部施設の供用開始時に少なくとも15名。プロジェクト期間において52名。）

(2) 施設及び機材

- 研修・宿泊施設
- 日本人専門家の執務室
- 研修に必要な機材
- 事務用品などの消耗品

(3) 予算措置

- AICADの運営に必要なスタッフの給与、光熱費などの経費
- 研修・宿泊施設の維持管理費

(4) 実施体制

各国の教育関係省を中心に加盟大学及び国際機関等が参加し、活動を行う。プロジェクトの方向性を決める合同調整委員会JCC（Joint Coordinating Council）をAICAD事務局、加盟大学の学長、財務関係省、日本側プロジェクト要員で構成し、適切な事業の運営を促進する。

4. 評価結果（実施決定理由）

本プロジェクトは、ケニア、ウガンダ、タンザニア各国の国家開発計画で優先

的課題とされている貧困削減に資する社会・経済開発を、各国のPRSPにも配慮しつつ取組むプロジェクトであり、先方のニーズと合致する。

また、研究事業で開発される汎用性の高い社会・経済開発に資する技術を、研修や積極的な情報発信により広く地域住民へ普及させることで、貧困層への直接的かつ効果的な裨益効果が期待され、4000万人以上とされる3カ国の貧困層人口に対する十分なインパクトが期待できる。

さらに、複数の大学間のネットワークを構築することにより、人的資源や情報の有効活用が可能となると同時に、高い波及効果が期待できる。

5. 外部要因リスク（外部条件）

対象3ヶ国の政情・治安は現在のところ安定しており、今後も急激な変化はないものと予想されるものの、活動の基礎となる重要な要素である。

また、最終受益者たるコミュニティはこのような急激な政情、治安、気候などの変動にきわめて左右されやすく、継続的なベースライン調査・モニタリングを行う必要がある。

6. 今後の評価計画

(1) 今後の評価に使う指標

1) 成果の達成度評価指標

- ・情報の蓄積量
- ・研究、研修件数
- ・組織運営体制の比較

2) プロジェクト目標達成度評価指標

- ・貧困削減プログラム実施数

3) 上位目標達成度評価指標

- ・貧困削減プログラム実施数

(2) 評価スケジュール

中間評価（2005年2月頃）、終了時評価（2007年8月頃）、事後評価（2017年頃）に実施予定。

